

口腔粘膜疾患の早期発見と支援システム

Early Detection and Support System for Oral Mucosal Diseases



増田 佳子

Keiko Masuda

医) 顕歯会 デンタル みつはし

Dental Mitsuhashi

日本は世界で最も平均寿命が長い国ですが、すべての人が健康寿命を全うできるわけではありません。健康寿命の延伸が課題とされる中、口腔がんの罹患率が急増している現状は見逃せない問題です。日本の口腔・咽頭がん罹患率は増加傾向にあり、死亡率は35.5%に達しています（出典:国立がん研究センター）。舌がんをはじめとする口腔がんは、治療後に構音障害や摂食・嚥下障害を引き起こし、患者の生活の質を著しく低下させ、健康寿命の短縮にもつながります。このため、口腔がんの早期発見と診断が極めて重要ですが、日本では診療が耳鼻咽喉科や口腔外科に集中しており、一般歯科医療機関での早期発見が困難な状況です。

一方、米国では口腔・咽頭がんの死亡率が19.1%と日本に比べて低く抑えられています（出典:米国 Cancer Statistics）。これは、半年に一度の検診が保険適用の条件となっていることや、歯科医療機関や専門団体による啓発活動により、口腔がん検診の受診率が80%以上に達していることが大きく寄与していると考えられます。

日本において健康寿命を伸ばすためには、一般歯科医院における定期検診時に口腔がんに関する知識、認識、診断能力を向上させることが求められます。この点で、定期検診を担う歯科衛生士の役割がますます重要になっています。

そこで注目されているのが、マイクロスコープを活用した診断支援システム（TelePro/天馬諮問社）です。このシステムでは、マイクロスコープで撮影した高画質動画を専門医と共有し、遠隔診断を受けることが可能です。動画は従来の写真に比べて情報量が多く、形状や色調の微細な変化をより正確に捉えることができます。また、専門医からのフィードバックにより、歯科医師や歯科衛生士が患者に適切な経過観察や治療方針を説明する支援が得られます。

このシステムは高齢化が進む日本において特に有用であり、地方在住者や大学病院受診に心理的抵抗を感じる患者にとっても、診断のハードルを下げる可能性があります。さらに、専門医とのチーム医療を通じて、口腔粘膜疾患の早期発見と適切な治療を実現する手助けとなります。

本講演では、このシステムの具体的な活用方法や、病理学専門医との連携による診断精度の向上について議論し、口腔粘膜疾患の早期発見に向けた今後の展望を考察します。

【略歴】

1982年 栃木県立衛生福祉大学校卒業

1982年 歯科医院勤務

1984年 結婚退職

1997年 都内歯科医院勤務

2002年 デンタルみつはし勤務

2013年 日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士取得

2024年 日本顕微鏡歯科学会認定指導歯科衛生士取得

In Japan, it is necessary to strengthen the observation of oral mucosa by dental hygienists in general dental clinics and establish a system for early detection.

A video diagnosis system utilizing a microscope will contribute to improved diagnostic accuracy and collaboration with specialists.

Future possibilities for this system will be discussed.

1982 Graduated from Tochigi Prefectural College of Health and Welfare

1982 Began working at a dental clinic

1984 Married and retired

1997 Returned to work at a dental clinic in Tokyo

2002 Started working at Dental Mitsuhashi

2013 Certified as a Dental Hygienist by the Japanese Society of Epipharyngeal Dentistry

2024 Certified as a Dental Hygienist by the Japanese Society for Examination of Dentistry
